

株式会社アーレスティ

2015年3月期 第2四半期 決算説明資料



2014年11月27日

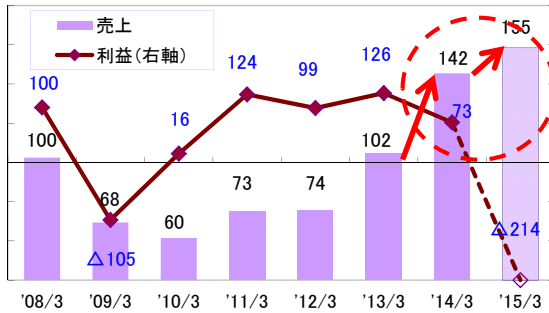
本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ 北米の業績悪化と改善
- ◆ TOPICS
- ◆ 2015年3月期第2四半期決算概況
- ◆ 今期の見通し

北米(米国工場)の業績推移

米国工場 売上高/営業損益の推移



注) '08/3を100として指数化したグラフ

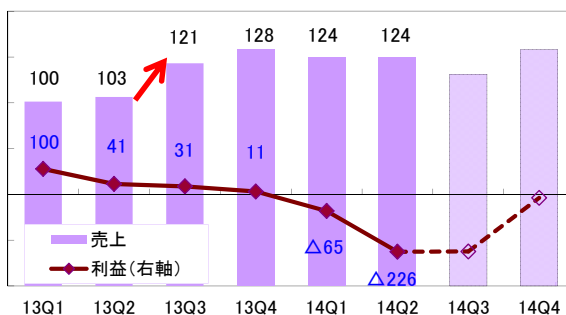
人員	527	341	370	404	463	568	704	930 ('14/9)
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------------

- '09/3期 リーマンショック後にレイオフにより人員削減
- '12/1 ロイヤルティ料率変更
- '13/5 設立25周年
- '13/8 増築工事竣工(倉庫等2,664㎡増築し、既存スペースに鋳造機、加工ラインを増設)

- ◆ '09/3期はリーマンショックによる需要減で、売上高が大きく減少し営業損失となる。レイオフにより人員削減し、スリムな体制に。
- ◆ '10/3期は更に売上が減少するも営業黒字を確保。
- ◆ '11/3期以降需要が回復してくるなか人員を増やしつつも、営業利益はリーマンショック前レベル又は以上を維持(12/3期はタイの洪水影響あり)。
- ◆ 売上・生産規模は、'13/3期にほぼリーマンショック前の水準に。
- ◆ '14/3期は大幅に売上高が増加し、人員も増加。この期から収益性が低下し始めた。

北米(米国工場)の業績悪化の要因

米国工場 売上高/営業損益の推移



注) 13Q1を100として指数化したグラフ

人員数	612	607	678	704	830	930	→	900以下
新規品	1	6	8	10	12	16	20	21

注) 上記新規品は13Q1からの累計点数(増産品含む)

- ◆ 作業者のスキルレベル低下
(人員増に対応した教育・訓練が後手に)
- ◆ 新規生産品の初期トラブル
(新規品、増産品点数の増加)
- ◆ 全体の生産性が低下
- ◆ 生産対応費用が増加
(残業・休日出勤による労務費の増加、製品輸送費の増加等)

【参考】製造本部が海外拠点のものづくり力向上の一環として、3か月を1クールとして巡回してきた改善指導は、米国工場を対象外としてきた。

北米(米国工場)の業績改善計画

- 8月に改善プロジェクトを発足
- 9月末までに主要な製品(DC、MC共影響の大きい10製品を対象)について、個別に問題点の洗い出しと改善計画を作成し(一部は改善策を実施)、全体の改善計画としてまとめる。
 - 生産性を改善し、正規の5日稼働へ
 - 作業者のスキル向上教育
 - 設備保全の計画的実施とトレーナーを含めた技術者の育成
 - 鑄造機の新設(2台)と動線の改善(建屋増築)・・・来期に寄与
- 10月以降、個別の具体的計画を実施中
個別の改善計画は、ほぼ計画通りに進捗。

TOPICS

■2013年

- 8月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工
合肥アーレスティ東風日産乗用車公司へエンジンブロック量産納入開始
- 9月 合肥アーレスティ拡張工事竣工
アーレスティインディア工場拡張工事着工
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工
本社を愛知県豊橋市に移転

■2014年

- 3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
公募増資を実施
- 4月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲングループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイルミントン増築工事着工

今後の予定

■2015年

- 5月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工予定

2015年3月期第2四半期決算概況



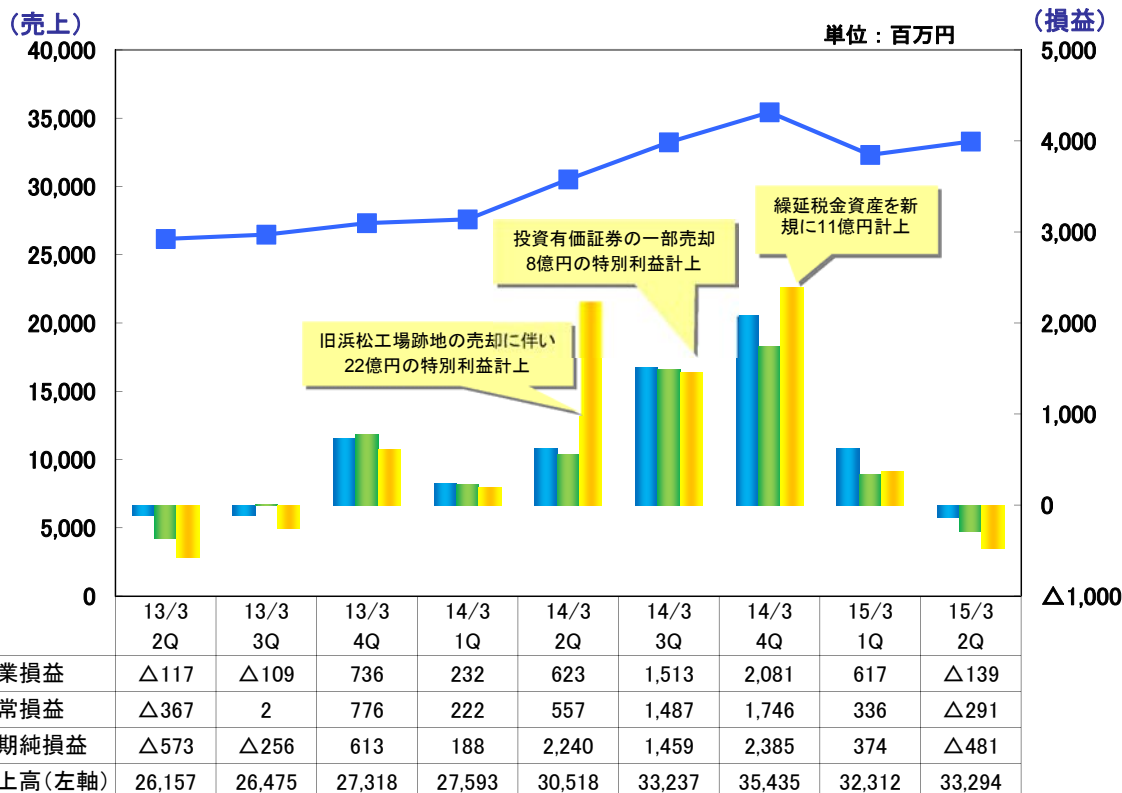
2015年3月期第1四半期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2014年3月期 上期		2015年3月期 上期		増減	
売上高	58,111	100%	65,606	100%	7,495	12.9%
営業利益	855	1.5%	478	0.7%	△377	△44.1%
経常利益	779	1.3%	45	0.1%	△734	△94.2%
四半期純利益	2,428	4.2%	△107	△0.2%	△2,535	—
EPS	112.57		△4.18		△116.75	

- ◆ 売上高: 国内では、消費増税の反動による影響があったものの受注量は前年同期と同水準で、地金市況影響等により増加、海外では受注増と為替影響等により増収となり、売上高は656億円(前年同期比12.9%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 主にダイカストアジアの収益改善効果があったものの、ダイカスト北米の収益悪化により、営業利益は478百万円(前年同期比44.1%減)となった。
- ◆ 経常利益: 前年同期は営業外で為替差益(250百万円)を計上したが、当四半期は為替差益の影響はなく、支払利息の増加(94百万円増)等により、経常利益は45百万円(前年同期比94.2%減)となった。
- ◆ 当期純利益: 前年同期は旧浜松工場跡地の売却による特別利益22.8億円を計上。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

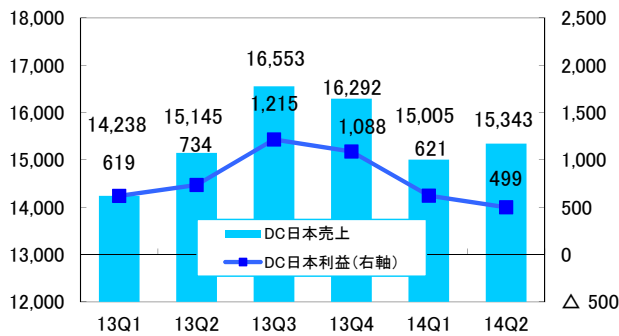
(単位：百万円)

		2014年3月期 上期	2015年3月期 上期	増減
日本	売上高	29,383 100%	30,348 100%	965 3.3%
	セグメント 損益	1,353 4.6%	1,120 3.7%	△233 △17.2%
北米	売上高	15,336 100%	19,063 100%	3,727 24.3%
	セグメント 損益	△25 △0.2%	△608 △3.2%	△583 —
アジア	売上高	10,166 100%	12,979 100%	2,813 27.7%
	セグメント 損益	△496 △4.9%	67 0.5%	563 —

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2014/3期:48.3% ⇒ 2015/3期1Q:51.1% ⇒ 2015/3期上期:51.4%
 ※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

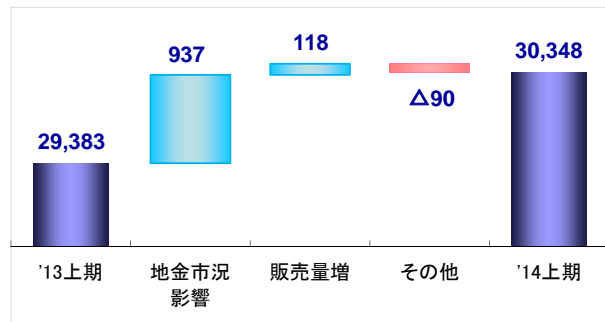
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



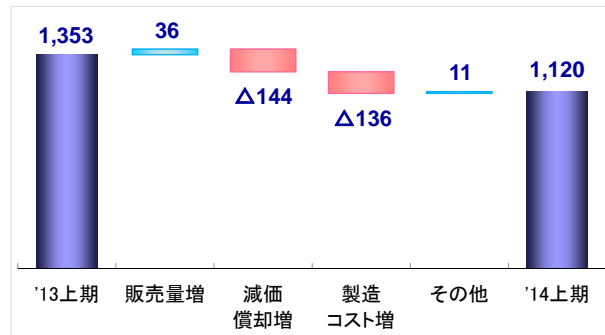
消費税増税の反動による需要減(前年下期比)があったものの、前年同期比では地金市況の影響も加わり、売上高は増加。

セグメント利益は、減価償却費、労務費の増加影響等により、前年同期比17.2%減。

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加するも、増産対応の遅れに伴う生産性の低下による費用増等により収益悪化。

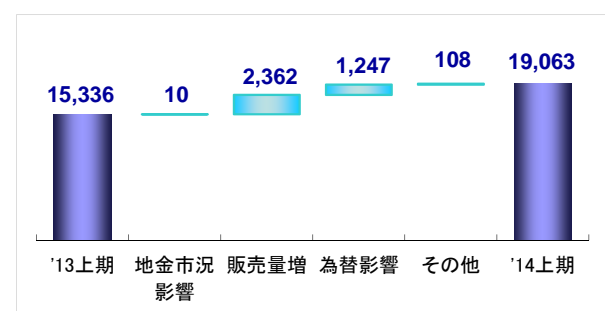
メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は増加。製造コストの改善が進み、収益改善。

北米の収益は悪化。現在、アメリカの収益改善のためのプロジェクト活動による改善計画を推進中。

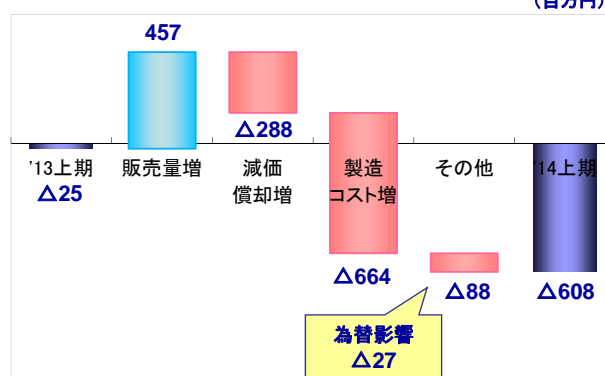
※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(13上→14上)
米\$ 97.99→103.50
メ\$ (米\$) 94.56→102.66

売上高増減要因 (百万円)

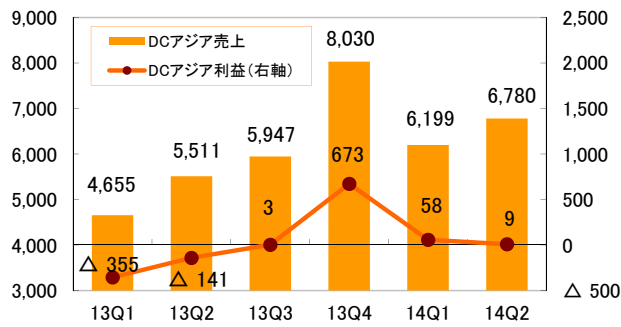


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



中国: 日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻りつつあった中、前年4Q比では減少するも、前年同期比では売上高は増加。操業4年目の合肥は前年4Qから黒字を継続。製造コスト削減効果により前年同期比増益。

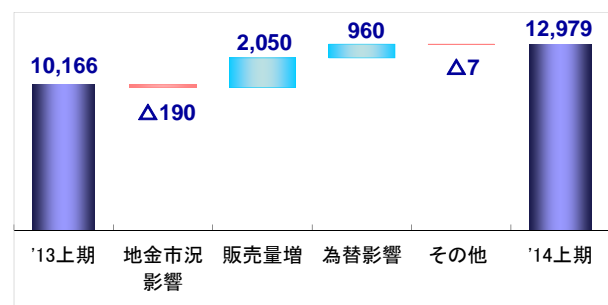
インド: 売上高は当初想定を下回り、前年同期よりも減少。売上減少等の影響により、収益は前年同期よりも悪化。

アジアの収益は改善。

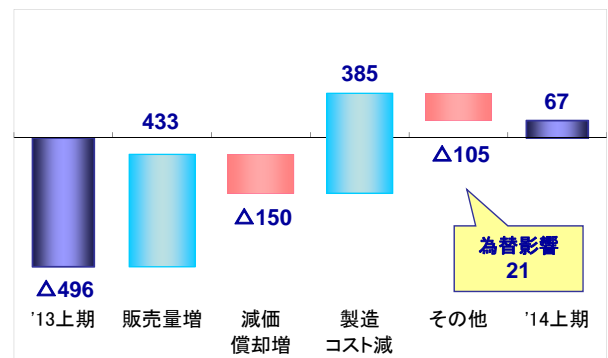
※中国1-12月
インド4-3月

平均レート(13上→14上)
人民元 15.29→16.67
インドルピー 1.67→1.72

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位: 百万円)

		2014年3月期 上期		2015年3月期 上期		増減	
アルミニウム 事業	売上	2,228	100%	2,345	100%	117	5.2%
	セグメント 損益	22	1.0%	△33	△1.4%	△55	-
完成品事業	売上	995	100%	869	100%	△126	△12.7%
	セグメント 損益	13	1.4%	△12	△1.4%	△25	-

アルミニウム事業: 受注量が前年同期比でほぼ横ばいで推移したものの、販売単価がアップしたことにより、売上高は5.2%増。セグメント損益は、原材料の高騰等の影響により33百万円の損失となった。

完成品事業: 主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注減により売上高は12.7%減少。セグメント損益は売上高減少の影響により12百万円の損失となった。

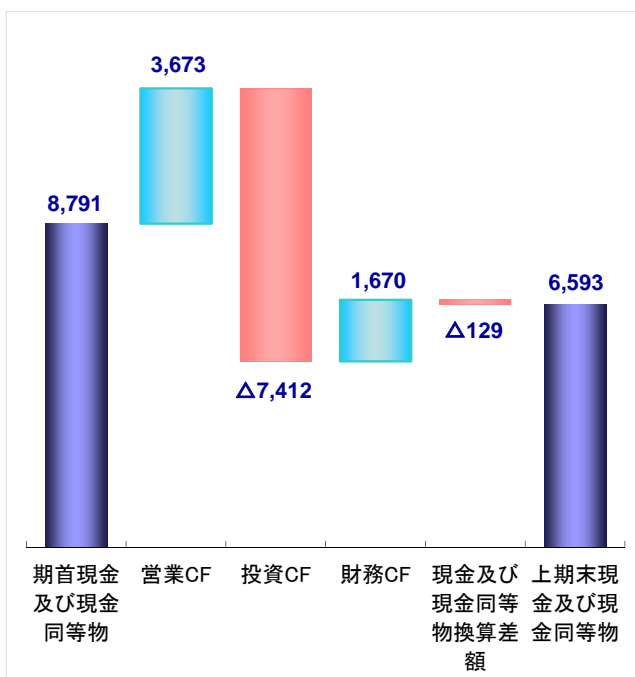
貸借対照表

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期 第2四半期	増減	
流動資産	48,920	46,469	△2,451	◆ 増資により一時的に増加した現預金が減少
現預金	8,791	6,593	△2,198	◆ 中国広州の売上減少及び為替影響により売掛債権が減少
売上債権	25,924	24,829	△1,095	
棚卸資産	10,536	11,004	468	
固定資産	88,313	89,580	1,267	◆ 海外での設備投資により有形固定資産が増加
有形固定資産	78,208	78,561	353	◆ 設備投資により借入金が増加
資産合計	137,233	136,050	△1,183	◆ 資産合計の増減の為替影響は△21億円
負債合計	82,641	82,029	△612	◆ 利益剰余金の減少等により純資産が減少
買入債務	19,714	19,111	△603	
長短借入金	43,014	43,958	944	
純資産合計	54,592	54,020	△572	
自己資本比率	39.7	39.6	△0.1	

キャッシュ・フロー

(百万円)



営業CF	3,673
税金等調整前四半期純利益	3
減価償却費	5,984
売上債権の減少	837
たな卸資産の増加	△ 495
仕入債務の減少	△ 462
未払消費税等の減少	△ 320
法人税等の支払額	△ 1,843
その他	△ 31

投資CF	△ 7,412
有形固定資産の取得	△ 7,403
有形固定資産の売却	45
その他	△ 54

財務CF	1,670
短期借入金の減少	△ 298
長期借入金の増加	2,232
配当金の支払	△ 153
その他	△ 108

- ◆ 海外を中心に営業CFを上回る設備投資を実施。
- ◆ 不足分を現預金('14/3月に実施した公募増資により一時的に増加していた)の減少と借入金の増加で賅う。

今期の見通し



2015年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2014年3月期		2015年3月期 期初計画		2015年3月期 修正計画(10/29)		対期初計画増減	
売上高	126,783	100%	135,300	100%	135,900	100%	600	0.4%
営業利益	4,449	3.5%	4,800	3.5%	1,800	1.3%	△3,000	△62.5%
経常利益	4,012	3.2%	4,000	3.0%	700	0.5%	△3,300	△82.5%
当期純利益	6,272	4.9%	2,500	1.8%	400	0.3%	△2,100	△84.0%
EPS	287.10		96.81		15.49		△81.32	

- ◆ 売上高: 国内は前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減が懸念されるものの、地金市況の影響により通期では増加すると見込まれ、海外は北米で販売量増と為替影響により増加が見込まれるものの、主に中国広州での販売量減少によりアジアは減少する見込みであることから、連結売上高は期初計画に対して微増。
- ◆ 営業利益: 国内及びアジアは期初計画よりも販売量が減少する見込みであることから、減益となり、北米での収益悪化により、連結では期初計画比大幅な減益。
- ◆ 経常利益: 営業利益の減少に加え、支払利息の為替影響による増加等により減益。
- ◆ 当期純利益: 経常利益の減少に伴い減益。

前提為替レート(10月以降): 105円/米ドル、17.0円/人民元、1.70円/インドルピー
(期初の前提為替レート: 100円/米ドル、16.5円/人民元、1.65円/インドルピー)

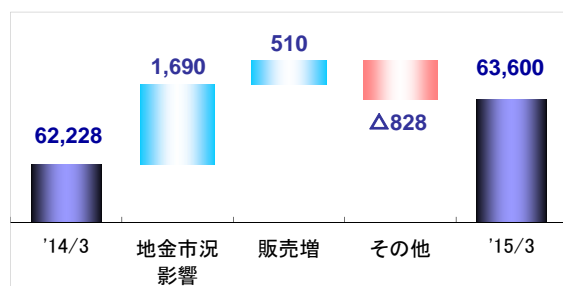
2015年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 期初計画	2015年3月期 修正計画(10/29)	対期初計画 増減	対期初計画 増減率
売上高	126,783	135,300	135,900	600	0.4%
ダイカスト日本	62,228	63,300	63,600	300	0.5%
ダイカスト北米	33,906	36,400	38,600	2,200	6.0%
ダイカストアジア	24,143	29,300	27,200	△2,100	△7.2%
アルミニウム	4,657	4,700	4,900	200	4.3%
完成品	1,848	1,600	1,600	—	—
営業利益	4,449	4,800	1,800	△3,000	△62.5%
ダイカスト日本	3,656	2,930	2,780	△150	△5.1%
ダイカスト北米	509	850	△1,300	△2,150	—
ダイカストアジア	180	950	300	△650	△68.4%
アルミニウム	△6	50	0	△50	△100.0%
完成品	66	20	20	—	—
消去または全社	43	—	—	—	—
経常利益	4,012	4,000	700	△3,300	△82.5%
当期純利益	6,272	2,500	400	△2,100	△84.0%

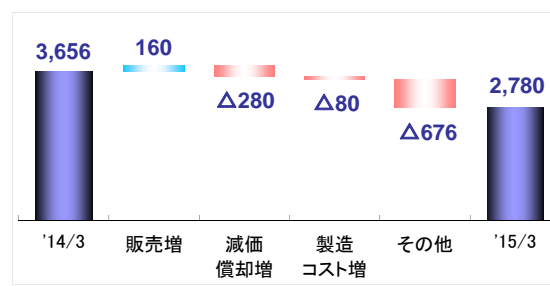
ダイカスト日本

売上高増減予測(10/29修正) (百万円)



対期初増減 700 △60 △340 300

セグメント損益増減予測(10/29修正) (百万円)



対期初増減 △20 70 80 △280 △150

売上高: 前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減の影響はほぼ期初想定通りで、地金市況の影響もあり通期では増加が見込まれる。

利益: 期初計画よりも減価償却費の減少、製造コストの改善が見込まれるものの、海外子会社からのロイヤルティの減少等により、期初計画比で減益を予想。

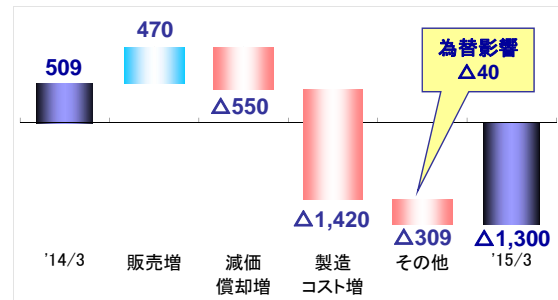
ダイカスト北米

売上高増減予測(10/29修正) (百万円)



対期初増減 30 450 1,430 290 2,200

セグメント損益増減予測(10/29修正) (百万円)



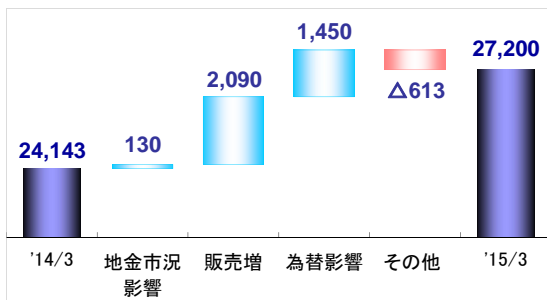
対期初増減 0 △70 △2,150 70 △2,150

売上高: メキシコ工場での販売量増加及び想定為替レート変更により、期初計画よりも売上高は増加する見込み。

利益: アメリカ工場の生産性低下の影響により、期初計画よりも大幅に減益を予想。

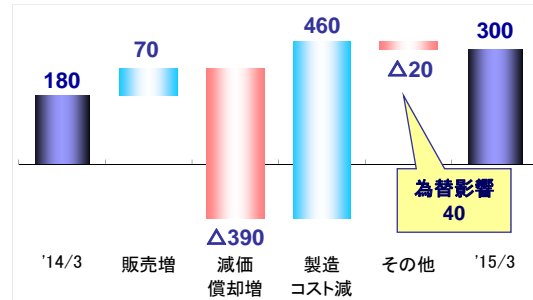
ダイカストアジア

売上高増減予測(10/29修正) (百万円)



対期初増減 840 △3,100 160 0 △2,100

セグメント損益増減予測(10/29修正) (百万円)



対期初増減 △750 30 △300 370 △650

売上高: 主に中国広州工場の売上高が期初計画から大幅に減少する見込み。

利益: 中国合肥工場が黒字を継続して好調なもの、広州工場の減収による影響が大きく、期初計画から大きく減益となる見込み。

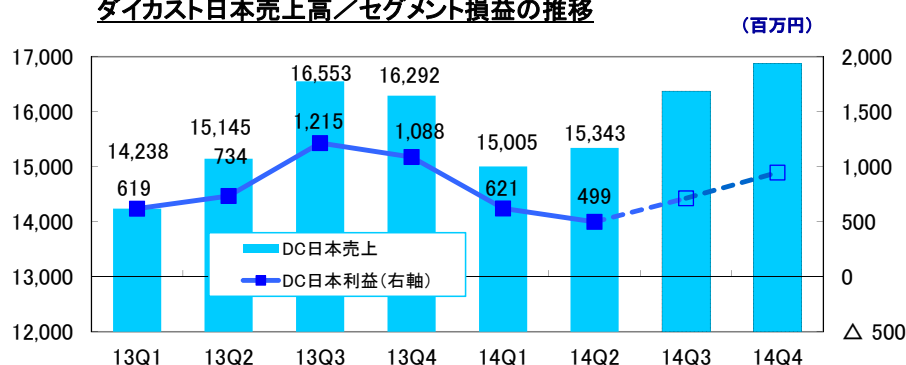
2015年3月期下期計画

(単位:百万円)

	2015年3月期 上期実績	2015年3月期 下期修正計画	下期対上期 増減	下期対上期 増減率
売上高	65,606	70,293	4,687	7.1%
ダイカスト日本	30,348	33,251	2,903	9.6%
ダイカスト北米	19,063	19,536	473	2.5%
ダイカストアジア	12,979	14,220	1,241	9.6%
アルミニウム	2,345	2,554	209	8.9%
完成品	869	730	△139	△16.1%
営業利益	478	1,322	844	176.4%
ダイカスト日本	1,120	1,659	538	48.1%
ダイカスト北米	△608	△691	△83	—
ダイカストアジア	67	232	164	241.9%
アルミニウム	△33	33	67	—
完成品	△12	32	45	—
消去または全社	△55	55	110	—
経常利益	45	654	609	—
当期純利益	△107	508	615	—

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移



上期: 売上高 30,348
損益 1,120

下期: 売上高 33,251
損益 1,659

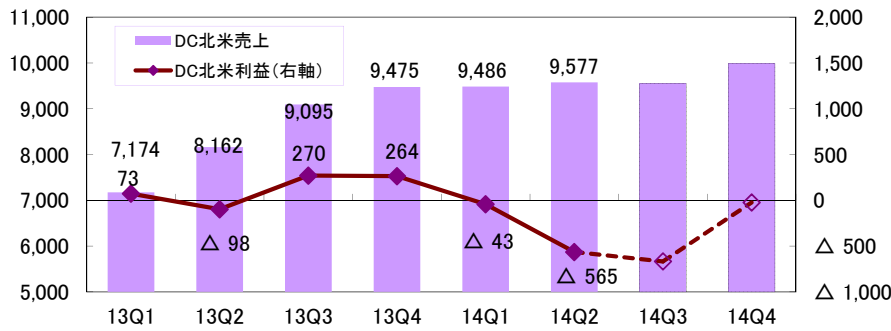
売上高: 前期の消費増税前の駆け込み需要増の反動減からの回復、及び好調な輸出により、下期は売上高の増加(上期比29億円、9.6%増)が見込まれる。
(地金市況影響は上期比4億円程度増)

利益: 主に増収効果により上期比5億円の増益を予想。

ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移

(百万円)



上期: 売上高 19,063
損益 △608

下期: 売上高 19,536
損益 △691

売上高: アメリカ工場は3Qで一時的に売上が減少するものの4Qで増加、メキシコ工場は3Qから増加する見込み。

北米全体では上期比2.5%増加の見込み。

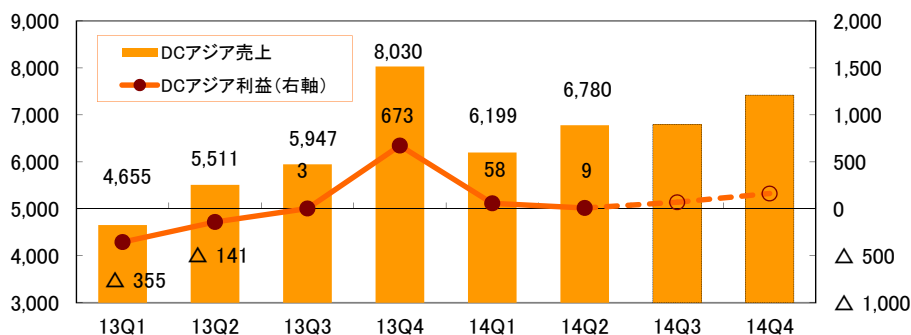
利益: アメリカ工場は3Qから生産性改善が見込まれるものの一時的な売上減少もあり、3Qは2Qと同程度の損失、4Qで生産性改善が進み3月単月で黒字化。

北米全体では4Qに1Qレベルまで戻し、来期で黒字化の見込み。

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移

(百万円)



上期: 売上高 12,979
損益 67

下期: 売上高 14,220
損益 232

売上高: 中国広州工場の売上高が期初計画から大幅に減少し上期実績を僅かに下回る見込みであるが、中国合肥工場及びインド工場の売上が上期比増加する見込み。

アジア全体では上期比9.6%増加の見込み。

利益: 広州工場は減収による影響が大きく減益となる見込みであるが、中国合肥工場が堅調に黒字を継続、インド工場も売上増に伴い損失を削減の見込み。

アジア全体では上期比1.6億円増益の見込み。

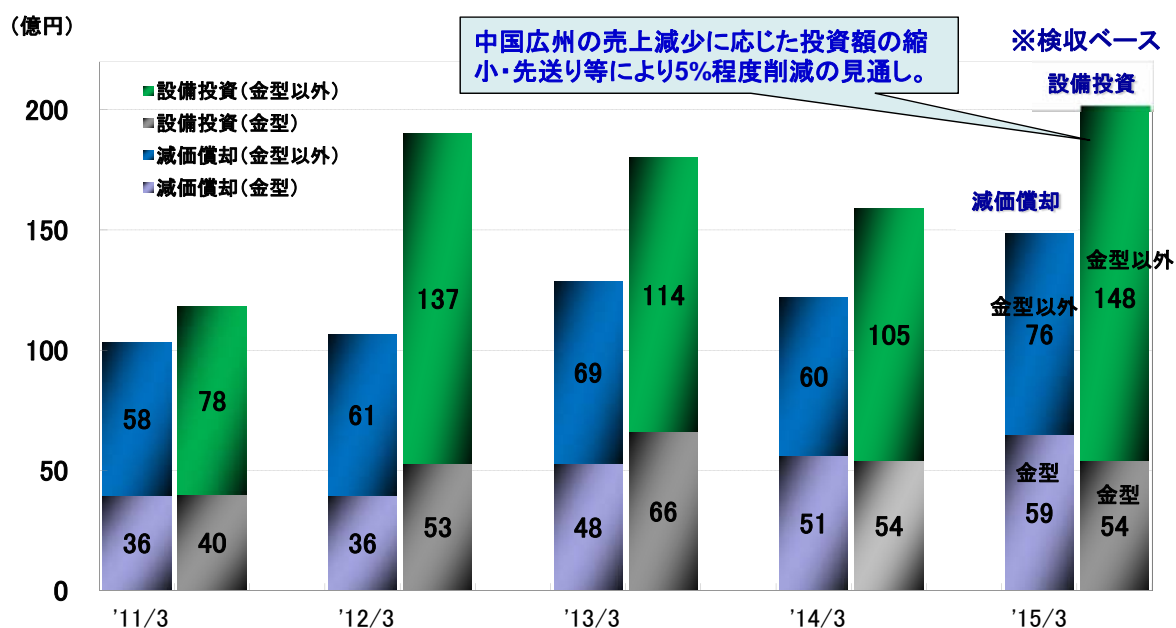
配当の状況

(単位:円)	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	12	6	3	14	12
中間配当	6	3	3	8	6
期末配当	6	3	—	6	6
一株当たり純損益(連結)	68.80	65.87	△ 7.76	287.10	15.49
配当性向(連結)	17.4%	9.1%	—	4.9%	77.5%

- ◆ 2014年3月期は、業績及び記念配を勘案して、年間14円の配当を決定
(中間配当は、創業75周年記念配当5円を含む8円を実施)
- ◆ 2015年3月期は、年間12円の配当を予想(中間配当6円を決定)

設備投資・減価償却の動向

- ◆ 海外ダイカスト事業の能力拡充の設備投資を計画



※海外ダイカスト拠点の能力拡充を中心に前期比40%増の設備投資を計画(金型以外)。金型投資は前期並み。

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。